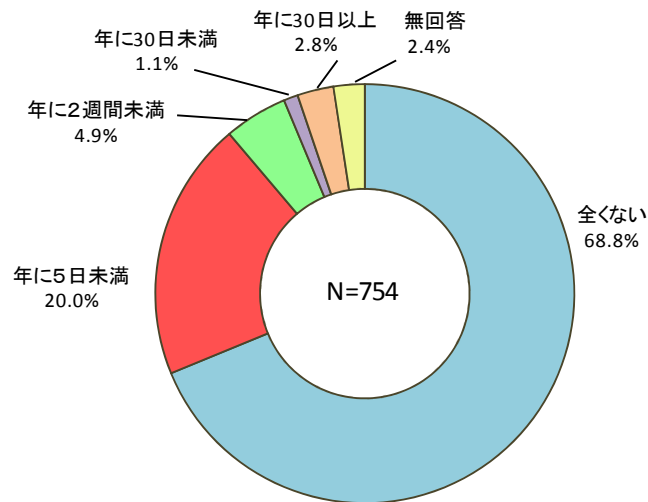


4. 人とヒグマの共存に関する道民の意識について

問1 あなたは、ヒグマとの接触の可能性のある行動をどの程度していますか。次の中から1つだけお選びください。

(1) ヒグマの住む山野に出かける



【全体】

「全くない」が68.8%と最も高く、次いで「年に5日未満」が20.0%、「年に2週間未満」が4.9%となっている。

【圏域別】

「全くない」は、道南圏（74.1%）が最も高く、次いで道央圏（69.5%）となっている。「年に5日未満」は、釧路・根室圏（25.7%）が最も高く、次いでオホーツク圏（25.6%）となっている。

【人口規模別】

「全くない」は、人口10万人以上の都市（74.5%）が最も高く、次いで人口10万人未満の都市（69.5%）となっている。「年に5日未満」は、人口10万人未満の都市（22.1%）が最も高く、次いで札幌市（21.4%）となっている。

【性別】

「全くない」は、男性59.1%、女性79.5%となっている。「年に5日未満」は、男性25.6%、女性14.6%となっている。

【年代別】

「全くない」は、20～29歳（80.4%）が最も高く、次いで70歳以上（72.2%）となっている。「年に5日未満」は、30～39歳（26.1%）が最も高く、次いで40～49歳（22.3%）となっている。

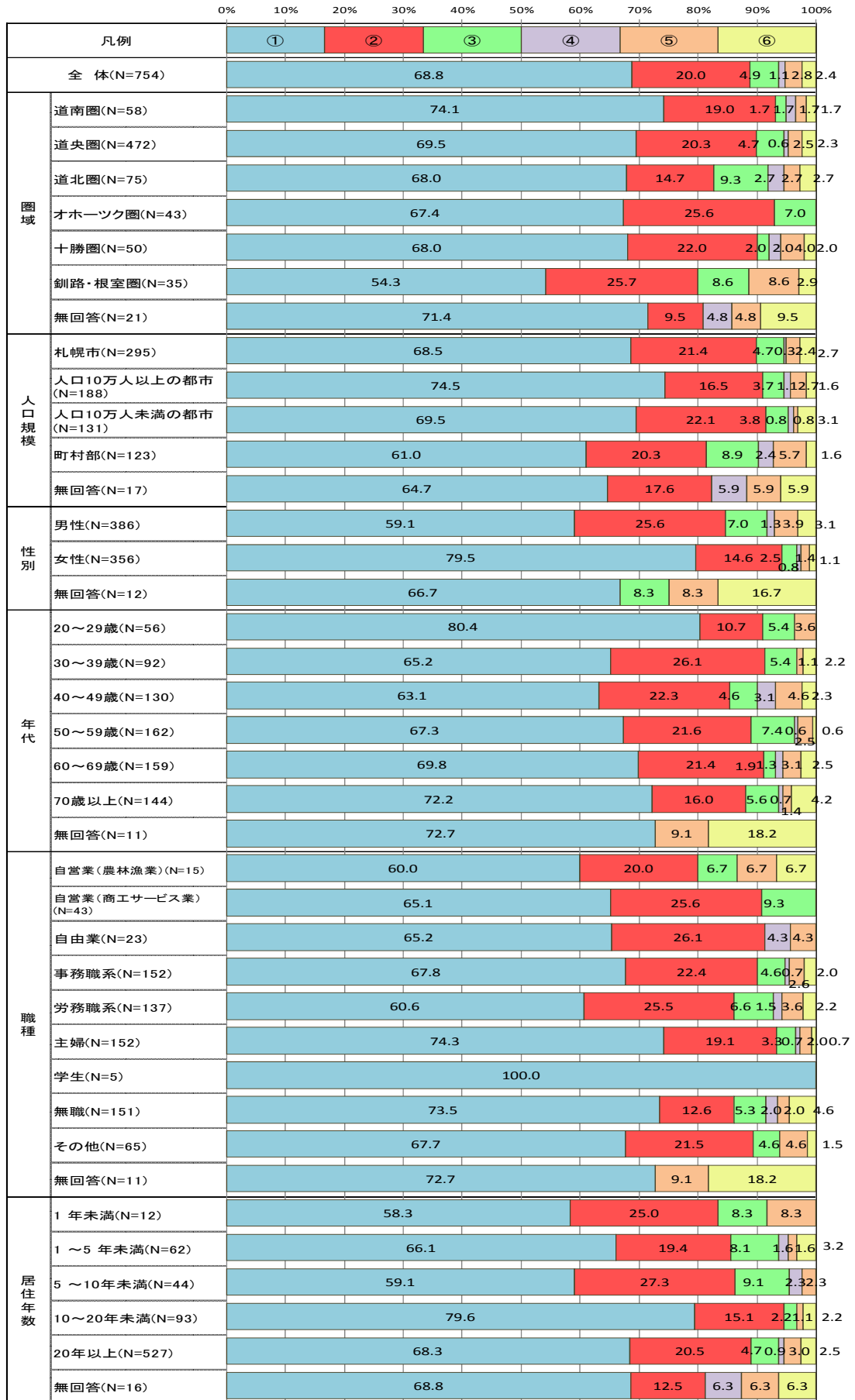
【職種別】

「全くない」は、主婦（74.3%）、無職（73.5%）で比較的高くなっている。「年に5日未満」は、自由業（26.1%）が最も高く、次いで自営業（商工サービス業）（25.6%）となっている。

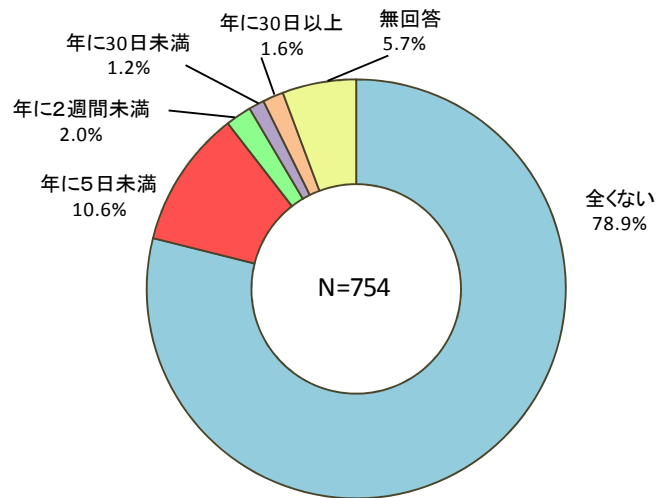
【居住年数別】

「全くない」は、10～20年未満（79.6%）が最も高く、次いで20年以上（68.3%）となっている。「年に5日未満」は、5～10年未満（27.3%）が最も高く、次いで1年未満（25.0%）となっている。

①全くない ②年に5日未満 ③年に2週間未満 ④年に30日未満 ⑤年に30日以上 ⑥無回答



(2) ヒグマが出没する農地に出かける



【全体】

「全くない」が78.9%と最も高く、次いで「年に5日未満」が10.6%、「年に2週間未満」が2.0%となっている。

【圏域別】

「全くない」は、道南圏（82.8%）が最も高く、次いで道央圏（81.6%）となっている。「年に5日未満」は、十勝圏（20.0%）が最も高く、次いで釧路・根室圏（17.1%）となっている。

【人口規模別】

「全くない」は、人口10万人未満の都市（81.7%）が最も高く、次いで札幌市（81.4%）となっている。「年に5日未満」は、町村部（12.2%）が最も高く、次いで札幌市（11.5%）となっている。

【性別】

「全くない」は、男性72.0%、女性86.8%となっている。「年に5日未満」は、男性13.2%、女性8.1%となっている。

【年代別】

「全くない」は、50～59歳（82.1%）が最も高く、次いで70歳以上（81.3%）となっている。「年に5日未満」は、40～49歳（15.4%）が最も高く、次いで50～59歳（11.1%）となっている。

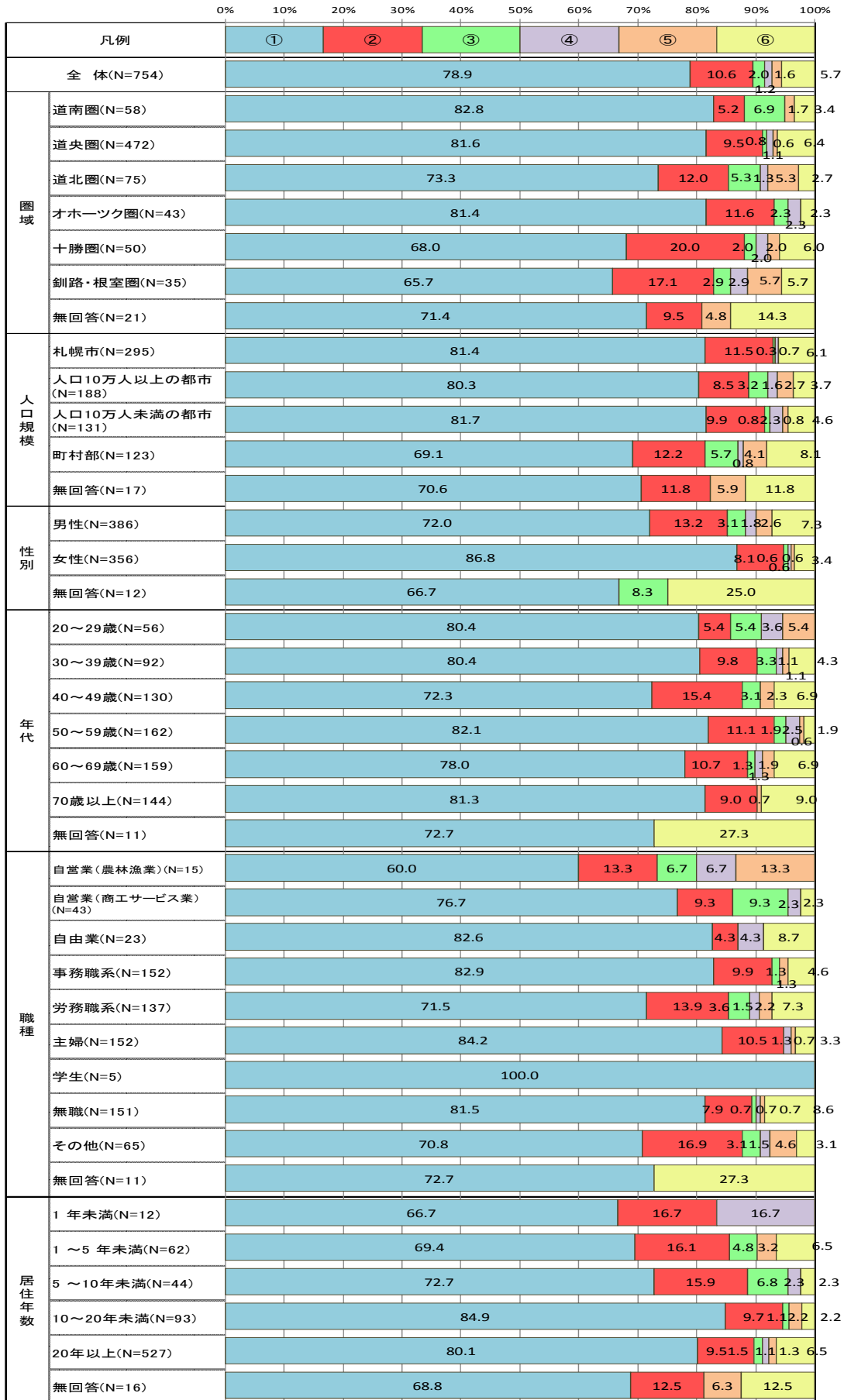
【職種別】

「全くない」は、主婦（84.2%）、事務職系（82.9%）で比較的高くなっている。「年に5日未満」は、その他（16.9%）が最も高く、次いで労務職系（13.9%）となっている。

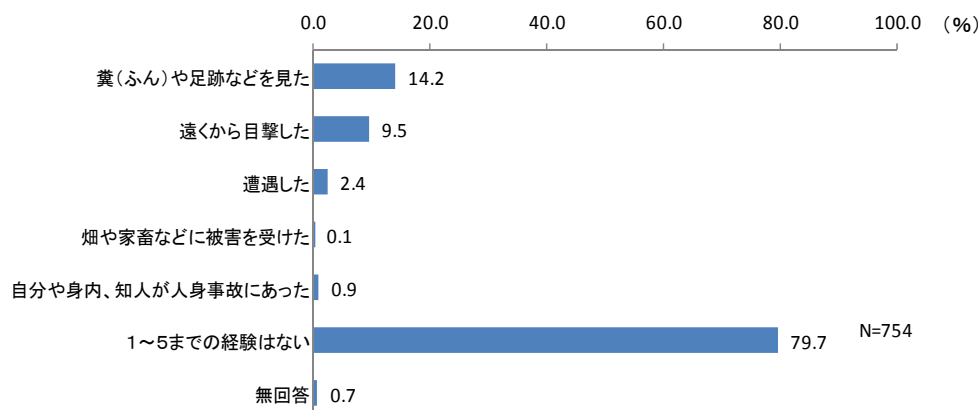
【居住年数別】

「全くない」は、10～20年未満（84.9%）が最も高く、次いで20年以上（80.1%）となっている。「年に5日未満」は、1年未満（16.7%）が最も高く、次いで1～5年未満（16.1%）となっている。

①全くない ②年に5日未満 ③年に2週間未満 ④年に30日未満 ⑤年に30日以上 ⑥無回答



問2 過去5年間に、ヒグマについてあなたが経験されたことを、次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「1～5までの経験はない」が79.7%と最も高く、次いで「糞(ふん)や足跡などを見た」が14.2%、「遠くから目撃した」が9.5%となっている。

【圏域別】

「1～5までの経験はない」は、道南圏(82.8%)が最も高く、次いで道央圏(81.6%)となっている。「糞(ふん)や足跡などを見た」は、オホーツク圏(23.3%)が最も高く、次いで道北圏(18.7%)となっている。

【人口規模別】

「1～5までの経験はない」は、人口10万人未満の都市(84.7%)が最も高く、次いで札幌市(82.0%)となっている。「糞(ふん)や足跡などを見た」は、町村部(26.8%)が最も高く、次いで人口10万人以上の都市(14.4%)となっている。

【性別】

「1～5までの経験はない」は、男性71.0%、女性89.6%となっている。「糞(ふん)や足跡などを見た」は、男性21.0%、女性7.0%となっている。

【年代別】

「1～5までの経験はない」は、20～29歳(82.1%)が最も高く、次いで50～59歳(81.5%)となっている。「糞(ふん)や足跡などを見た」は、30～39歳(17.4%)が最も高く、次いで40～49歳(16.2%)となっている。

【職種別】

「1～5までの経験はない」は、主婦(85.5%)、その他(84.6%)で比較的高くなっている。「糞(ふん)や足跡などを見た」は、自営業(農林漁業)(33.3%)が最も高く、次いで労務職系(22.6%)となっている。

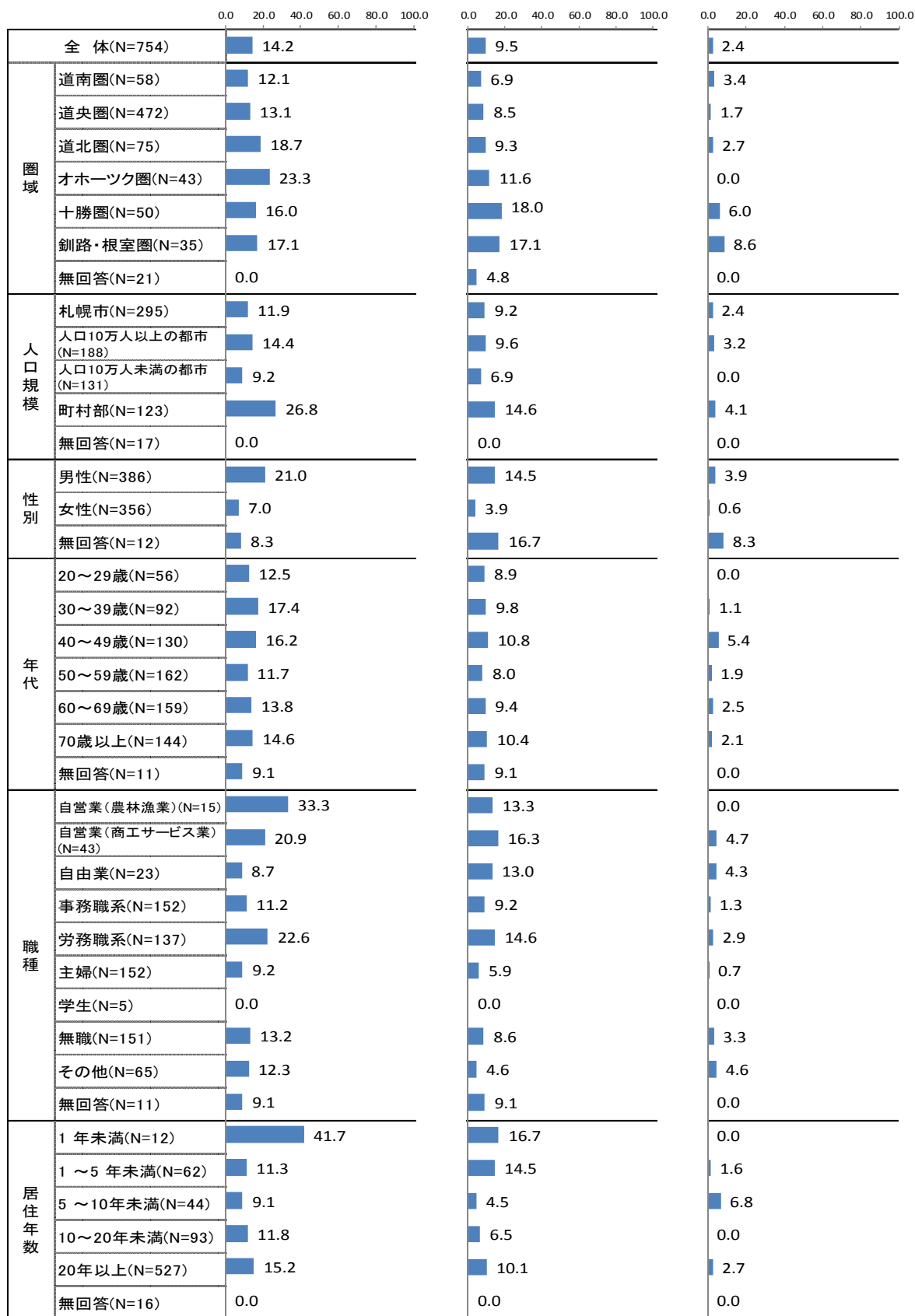
【居住年数別】

「1～5までの経験はない」は、10～20年未満(82.8%)が最も高く、次いで5～10年未満(81.8%)となっている。「糞(ふん)や足跡などを見た」は、1年未満(41.7%)が最も高く、次いで20年以上(15.2%)となっている。

糞(ふん)や足跡などを
見た

遠くから目撃した

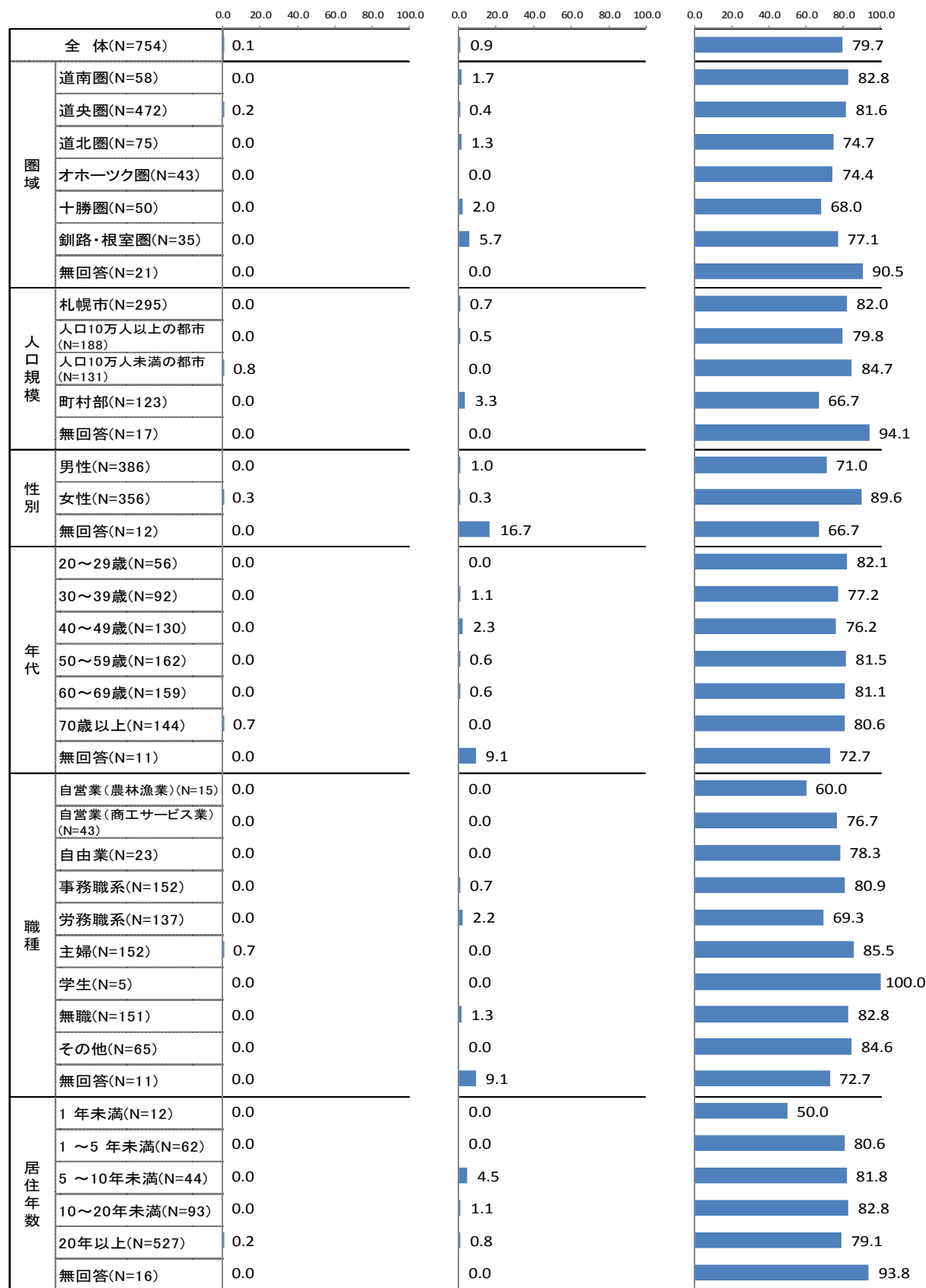
遭遇した



畑や家畜などに被害を受けた

自分や身内、知人が人身事故にあった

1～5までの経験はない

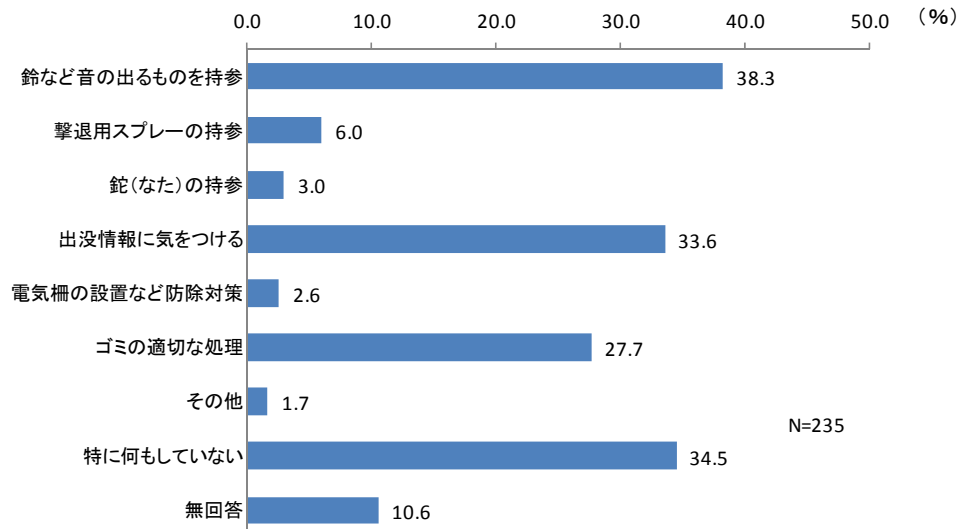


無回答

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

	全 体(N=754)	0.7
圏 域	道南圏(N=58)	0.0
	道央圏(N=472)	0.6
	道北圏(N=75)	1.3
	オホーツク圏(N=43)	0.0
	十勝圏(N=50)	0.0
	釧路・根室圏(N=35)	0.0
	無回答(N=21)	4.8
	人 口 規 模	札幌市(N=295)
人口10万人以上の都市 (N=188)		0.5
人口10万人未満の都市 (N=131)		0.8
町村部(N=123)		0.0
無回答(N=17)		5.9
性 別	男性(N=386)	0.8
	女性(N=356)	0.3
	無回答(N=12)	8.3
年 代	20～29歳(N=56)	0.0
	30～39歳(N=92)	0.0
	40～49歳(N=130)	0.8
	50～59歳(N=162)	0.0
	60～69歳(N=159)	0.6
	70歳以上(N=144)	1.4
	無回答(N=11)	9.1
職 種	自営業(農林漁業)(N=15)	0.0
	自営業(商工サービス業) (N=43)	0.0
	自由業(N=23)	0.0
	事務職系(N=152)	0.0
	労務職系(N=137)	0.7
	主婦(N=152)	0.7
	学生(N=5)	0.0
	無職(N=151)	1.3
	その他(N=65)	0.0
	無回答(N=11)	9.1
居 住 年 数	1年未満(N=12)	0.0
	1～5年未満(N=62)	1.6
	5～10年未満(N=44)	0.0
	10～20年未満(N=93)	0.0
	20年以上(N=527)	0.6
	無回答(N=16)	6.3

問3 ※「問1」で選択肢「2」～「5」を選んだ方のみお答えください。
 あなた自身で行っているヒグマ対策について、次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「鈴など音の出るものを持参」が 38.3%と最も高く、次いで「特に何もしていない」が 34.5%、「出没情報に気をつける」が 33.6%となっている。

【圏域別】

「鈴など音の出るものを持参」は、十勝圏 (55.0%) が最も高く、次いでオホーツク圏 (46.7%) となっている。「特に何もしていない」は、道南圏 (40.0%) が最も高く、次いで道北圏 (36.0%) となっている。

【人口規模別】

「鈴など音の出るものを持参」は、町村部 (57.1%) が最も高く、次いで人口 10 万人未満の都市 (38.5%) となっている。「特に何もしていない」は、人口 10 万人未満の都市 (41.0%) が最も高く、次いで札幌市 (38.2%) となっている。

【性別】

「鈴など音の出るものを持参」は、男性 42.0%、女性 28.9%となっている。「特に何もしていない」は、男性 31.2%、女性 42.1%となっている。

【年代別】

「鈴など音の出るものを持参」は、70 歳以上 (50.0%) が最も高く、次いで 50～59 歳 (48.1%) となっている。「特に何もしていない」は、20～29 歳 (46.7%) が最も高く、次いで 40～49 歳 (43.8%) となっている。

【職種別】

「鈴など音の出るものを持参」は、事務職系 (47.9%)、無職 (41.2%) で比較的高くなっている。「特に何もしていない」は、無職 (38.2%)、労務職系 (36.4%) で比較的高くなっている。

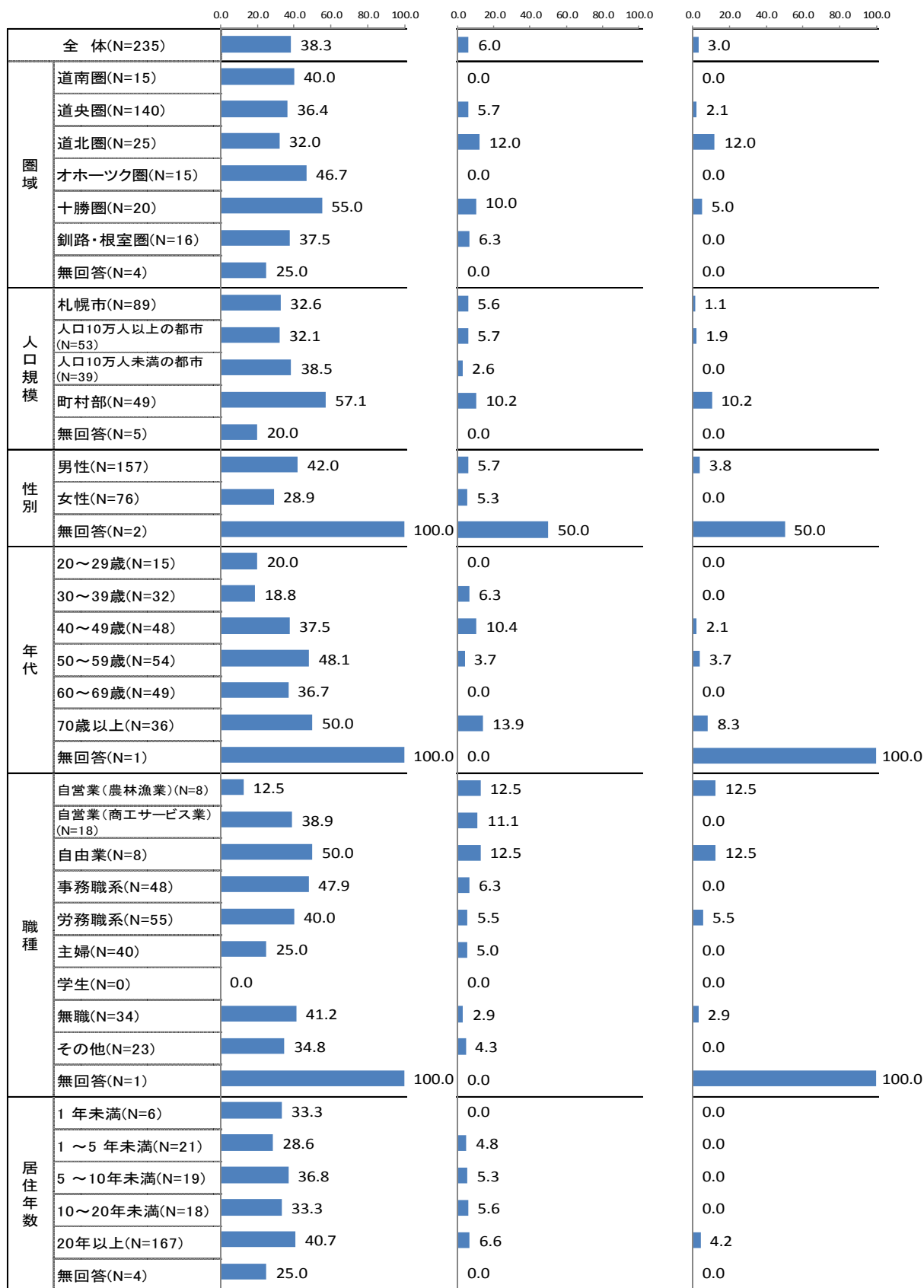
【居住年数別】

「鈴など音の出るものを持参」は、20 年以上 (40.7%) が最も高く、次いで 5～10 年未満 (36.8%) となっている。「特に何もしていない」は、10～20 年未満 (55.6%) が最も高く、次いで 5～10 年未満 (36.8%) となっている。

鈴など音の出るものを持参

撃退用スプレーの持参

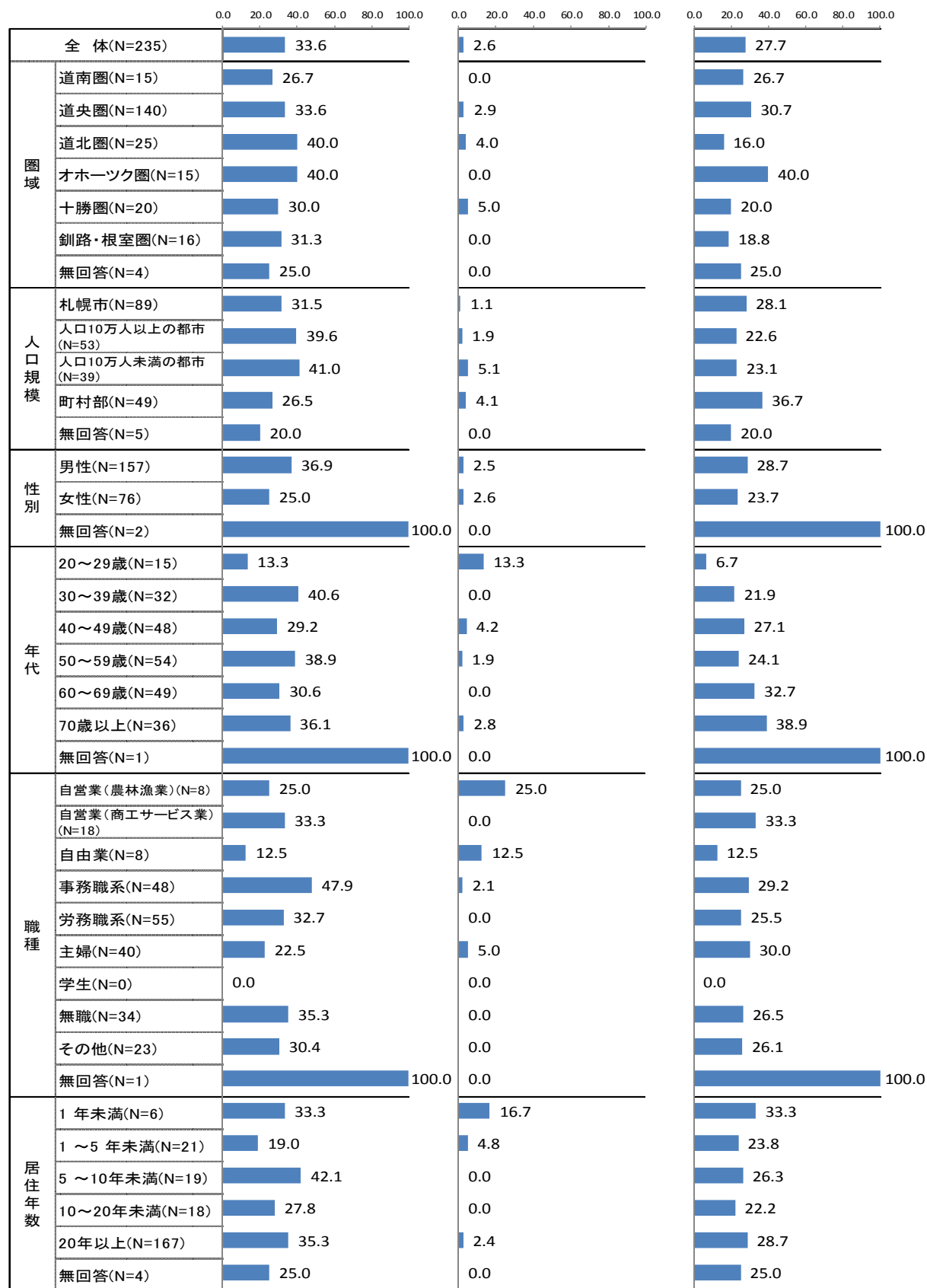
鉈(なた)の持参

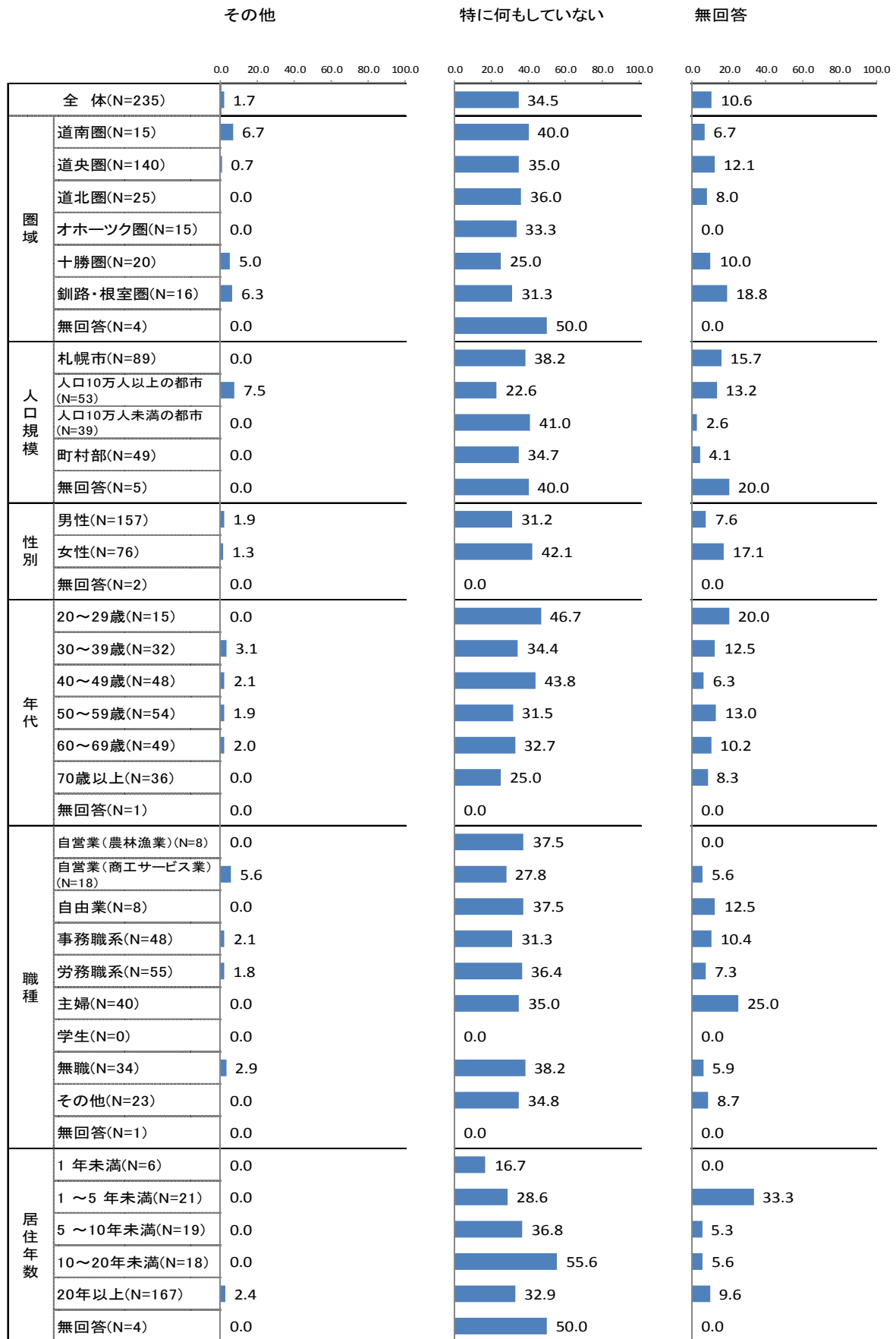


出没情報に気をつける

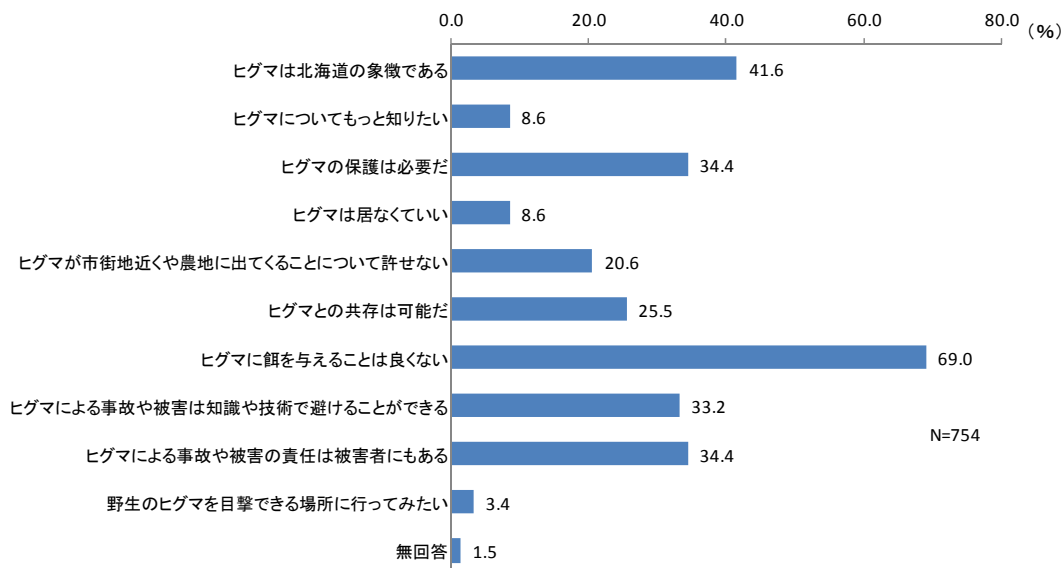
電気柵の設置など防除対策

ゴミの適切な処理対策





問4 北海道のヒグマに関する次の意見に対して、あなたの考えに当てはまるものを次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「ヒグマに餌を与えることは良くない」が69.0%と最も高く、次いで「ヒグマは北海道の象徴である」が41.6%、「ヒグマの保護は必要だ」「ヒグマによる事故や被害の責任は被害者にもある」がともに34.4%となっている。

【圏域別】

「ヒグマに餌を与えることは良くない」は、釧路・根室圏(80.0%)が最も高く、次いで道央圏(69.7%)となっている。「ヒグマは北海道の象徴である」は、オホーツク圏(48.8%)が最も高く、次いで十勝圏(46.0%)となっている。

【人口規模別】

「ヒグマに餌を与えることは良くない」は、人口10万人未満の都市(74.0%)が最も高く、次いで札幌市(69.5%)となっている。「ヒグマは北海道の象徴である」は、人口10万人以上の都市(47.9%)が最も高く、次いで札幌市(41.7%)となっている。

【性別】

「ヒグマに餌を与えることは良くない」は、男性70.2%、女性68.0%となっている。「ヒグマは北海道の象徴である」は、男性47.4%、女性36.2%となっている。

【年代別】

「ヒグマに餌を与えることは良くない」は、20～29歳(78.6%)が最も高く、次いで60～69歳(72.3%)となっている。「ヒグマは北海道の象徴である」は、30～39歳(47.8%)が最も高く、次いで20～29歳(46.4%)となっている。

【職種別】

「ヒグマに餌を与えることは良くない」は、自営業(商工サービス業)(74.4%)、主婦(74.3%)で比較的高くなっている。「ヒグマは北海道の象徴である」は、自由業(56.5%)が最も高く、次いで自営業(農林漁業)、労務職系(ともに46.7%)となっている。

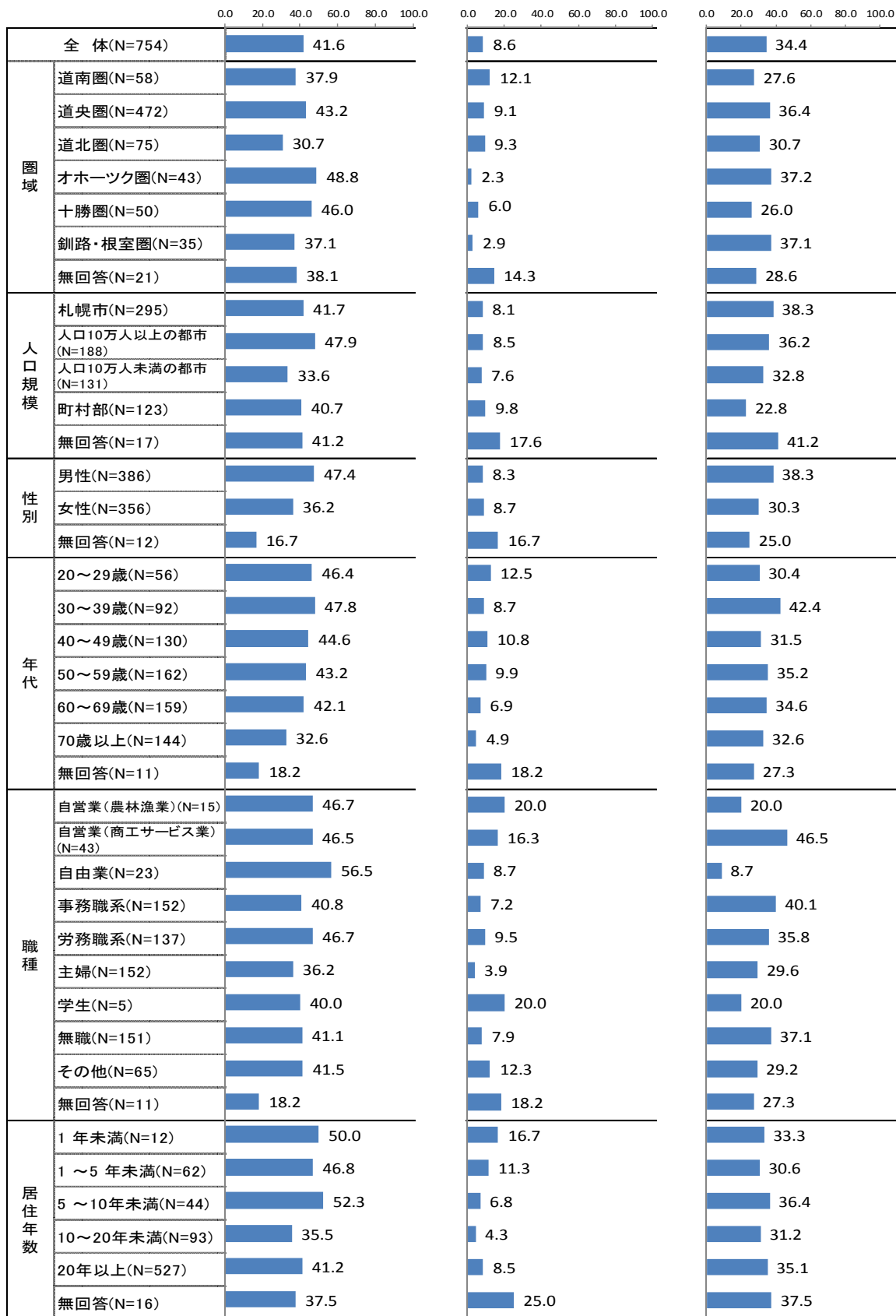
【居住年数別】

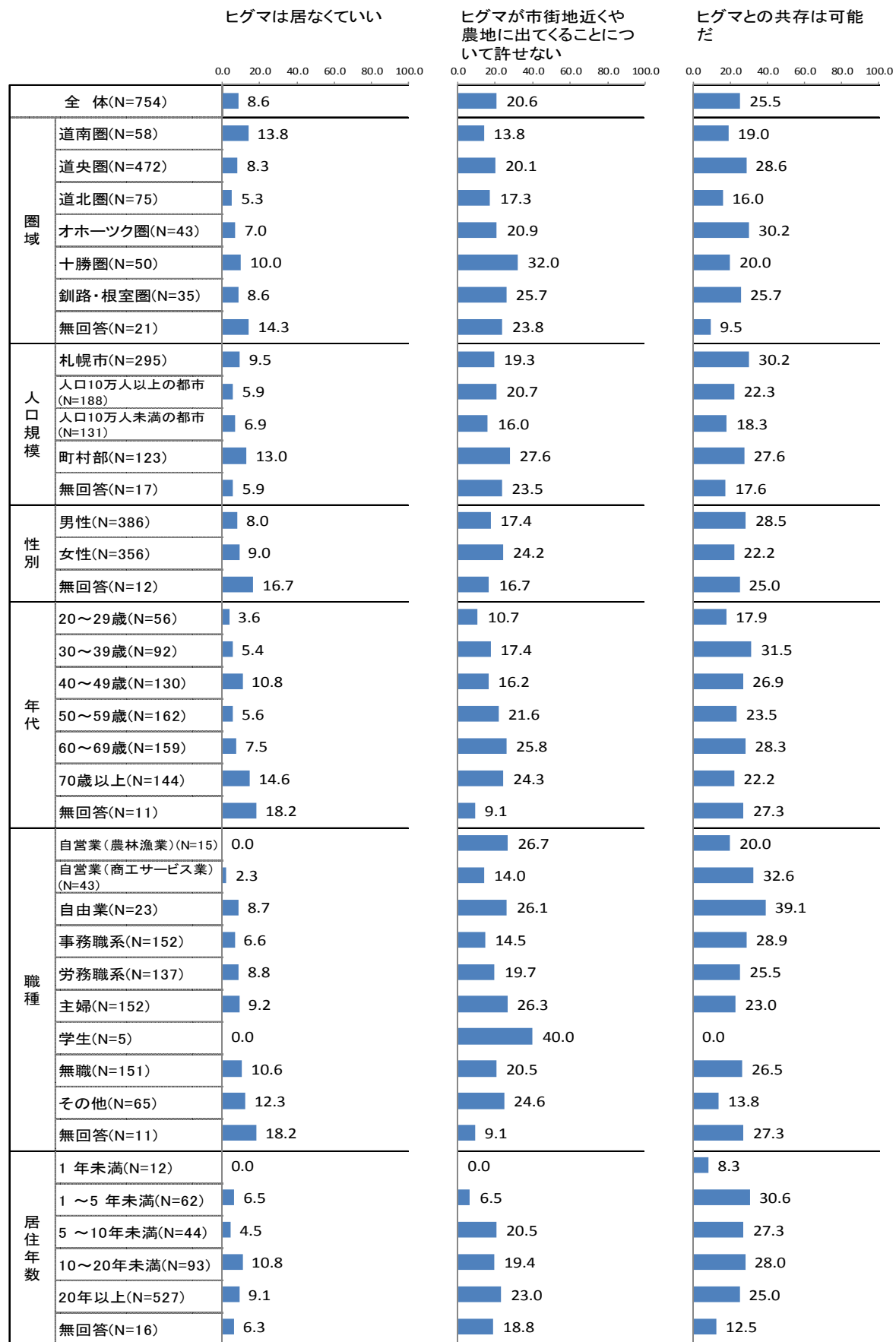
「ヒグマに餌を与えることは良くない」は、1～5年未満(74.2%)が最も高く、次いで20年以上(71.3%)となっている。「ヒグマは北海道の象徴である」は、5～10年未満(52.3%)が最も高く、次いで1年未満(50.0%)となっている。

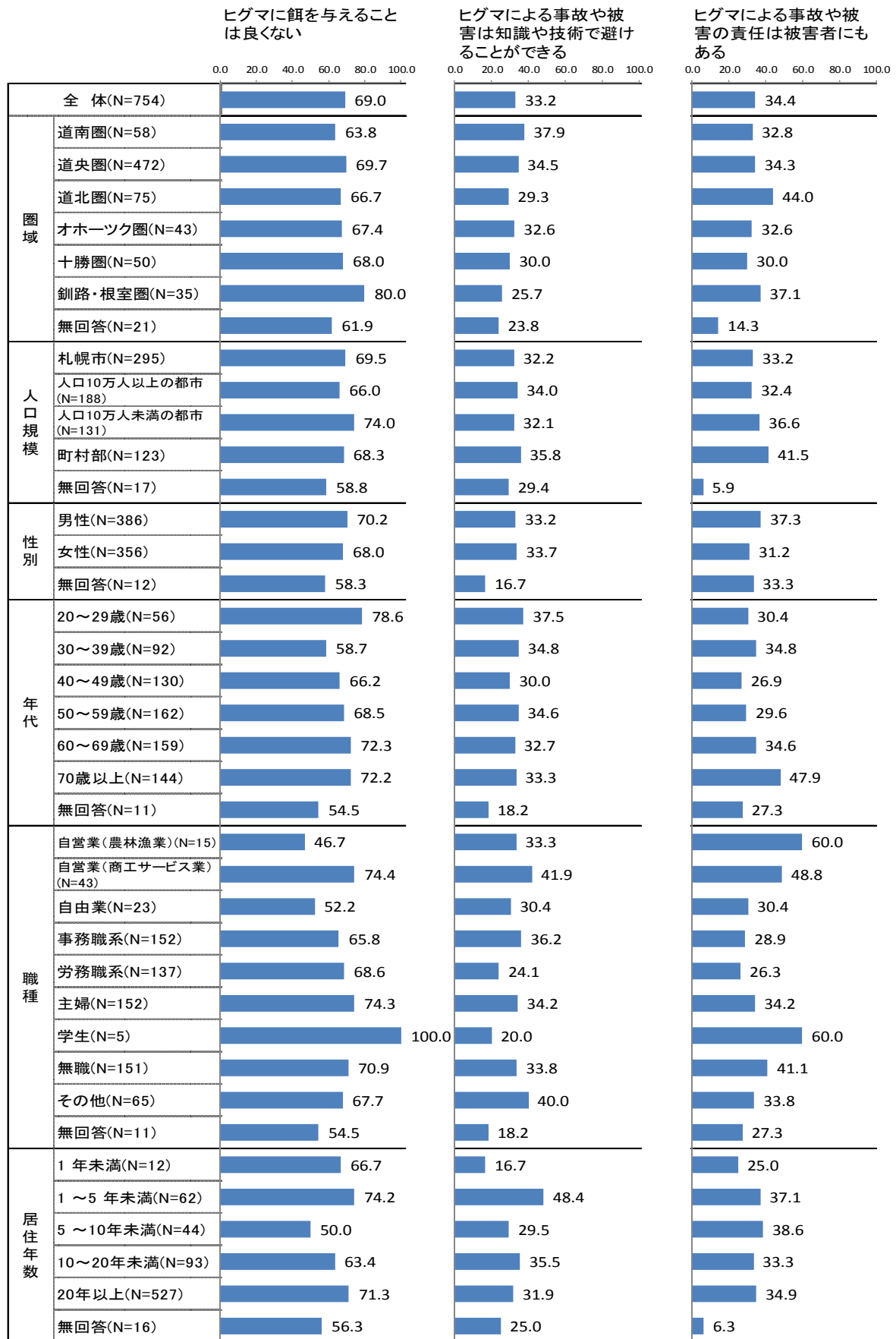
ヒグマは北海道の象徴である

ヒグマについてもっと知りたい

ヒグマの保護は必要だ

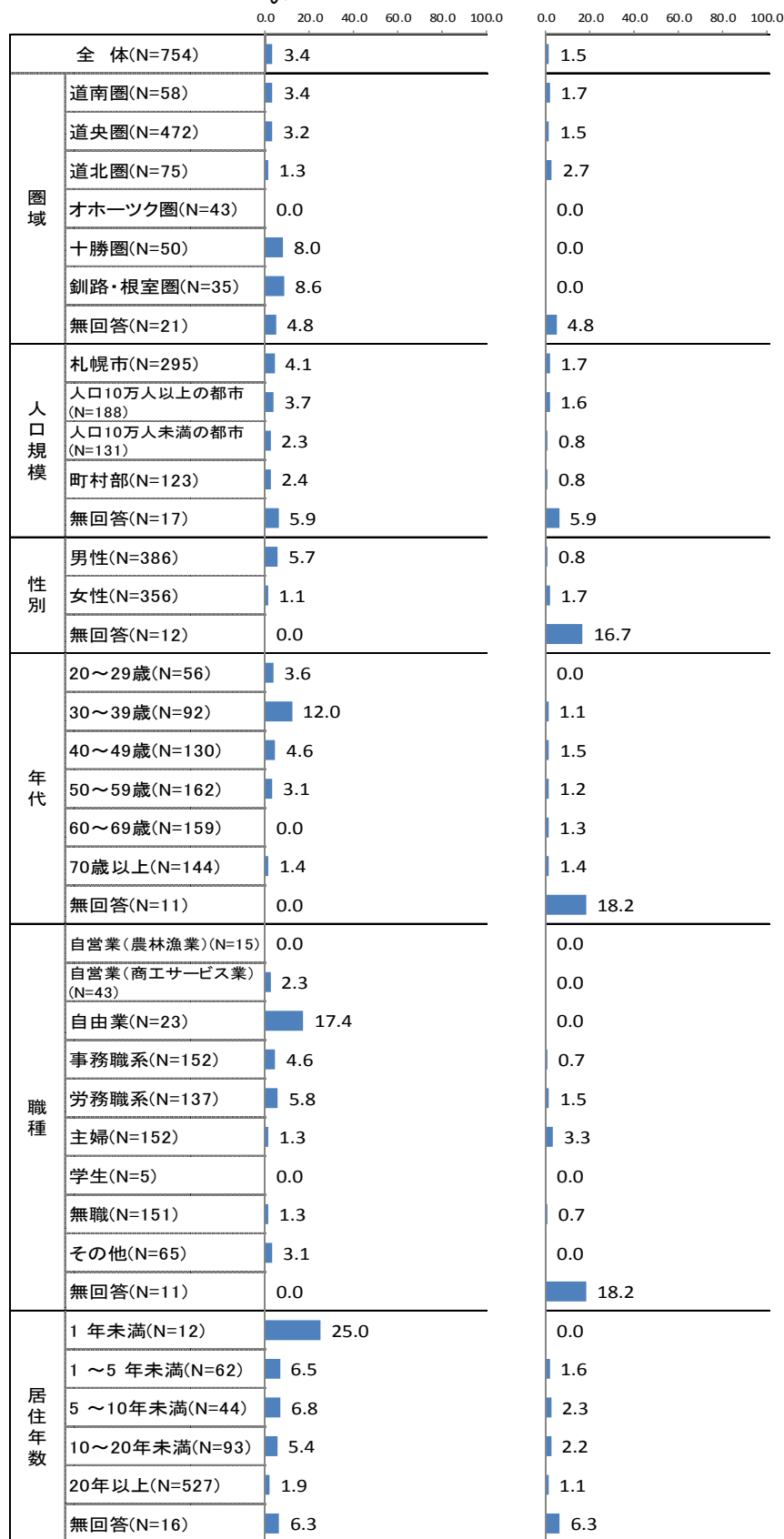




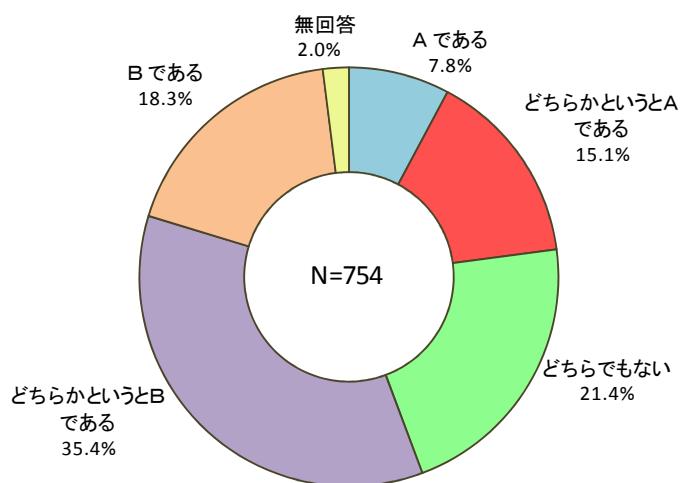


野生のヒグマを目撃できる場所に行ってみたい

無回答



問5 ヒグマに対する【A】捕獲して積極的に数を減らすべきと【B】できるだけ殺さずに対応すべきの考え方に対して、あなたの考えに当てはまるものを、次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「どちらかというBである」が 35.4%と最も高く、次いで「どちらでもない」が 21.4%、「Bである」が 18.3%となっている。

【圏域別】

「どちらかというBである」は、道央圏（37.7%）が最も高く、次いで釧路・根室圏（34.3%）となっている。「どちらでもない」は、十勝圏（28.0%）が最も高く、次いで道南圏（25.9%）となっている。

【人口規模別】

「どちらかというBである」は、人口 10 万人以上の都市（37.2%）が最も高く、次いで札幌市（36.9%）となっている。「どちらでもない」は、町村部（24.4%）が最も高く、次いで人口 10 万人未満の都市（22.9%）となっている。

【性別】

「どちらかというBである」は、男性 35.5%、女性 35.7%となっている。「どちらでもない」は、男性 19.4%、女性 24.2%となっている。

【年代別】

「どちらかというBである」は、30～39 歳（41.3%）が最も高く、次いで 40～49 歳（40.0%）となっている。「どちらでもない」は、30～39 歳（28.3%）が最も高く、次いで 50～59 歳（25.3%）となっている。

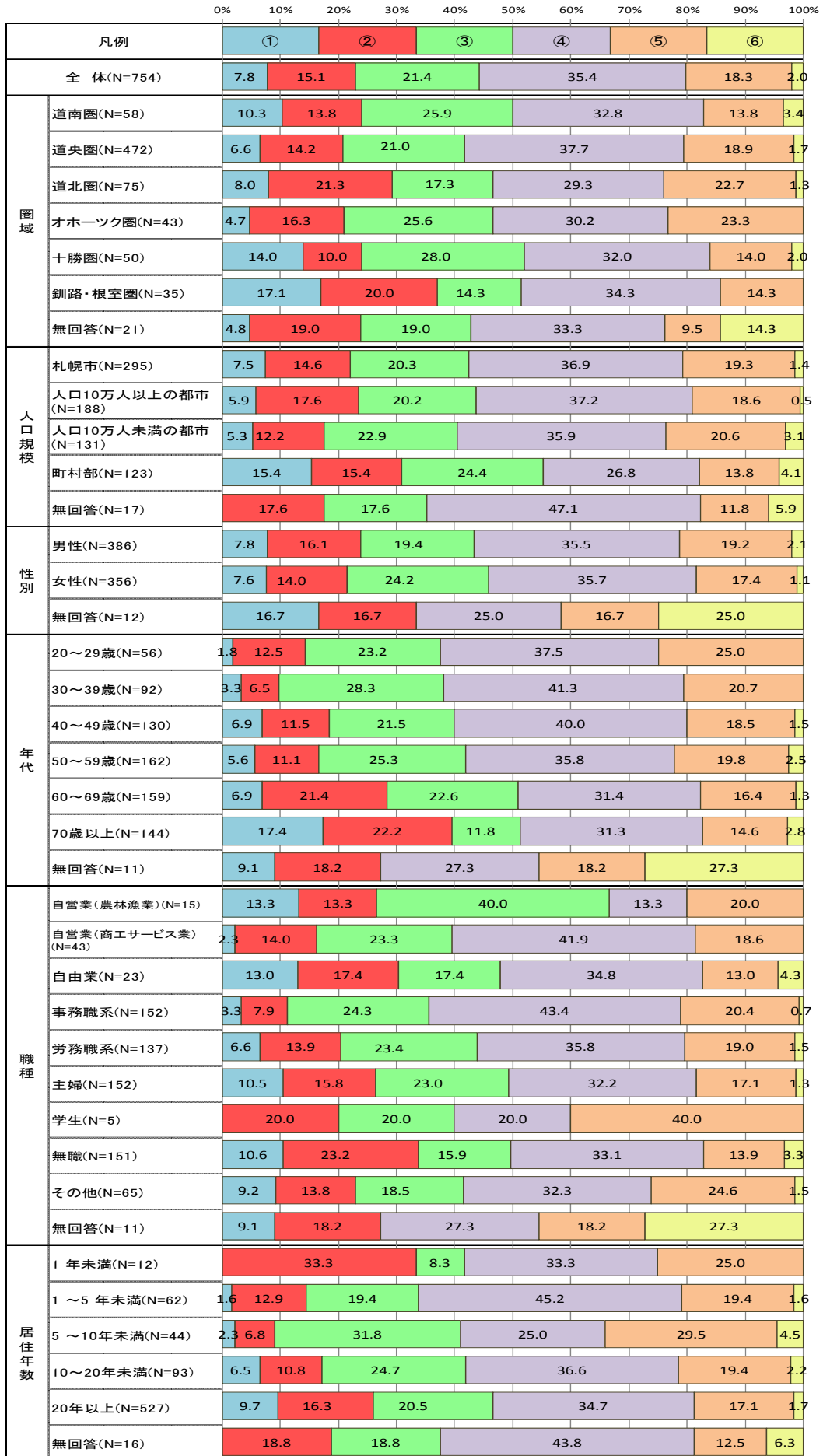
【職種別】

「どちらかというBである」は、事務職系（43.4%）が最も高く、次いで自営業（商工サービス業）（41.9%）となっている。「どちらでもない」は、自営業（農林漁業）（40.0%）が最も高く、次いで事務職系（24.3%）となっている。

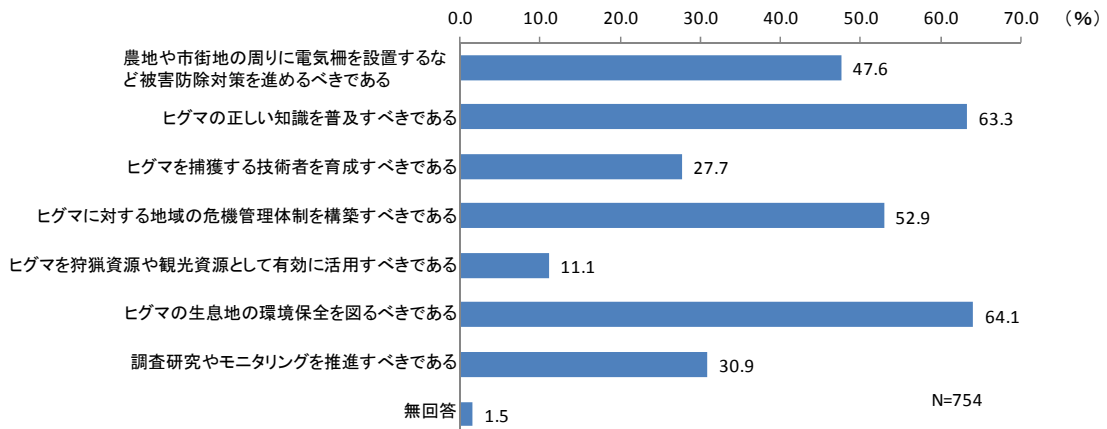
【居住年数別】

「どちらかというBである」は、1～5 年未満（45.2%）が最も高く、次いで 10～20 年未満（36.6%）となっている。「どちらでもない」は、5～10 年未満（31.8%）が最も高く、次いで 10～20 年未満（24.7%）となっている。

①Aである ②どちらかというAである ③どちらでもない ④どちらかというBである ⑤Bである ⑥無回答



問6 北海道や関係する機関が、今後さらに力を入れるべきヒグマ対策について、あなたが必要と考える取組を、次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」が 64.1%と最も高く、次いで「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」が 63.3%、「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」が 52.9%となっている。

【圏域別】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、道央圏 (66.5%) が最も高く、次いで十勝圏 (64.0%) となっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、道南圏 (70.7%) が最も高く、次いで釧路・根室圏 (68.6%) となっている。

【人口規模別】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、人口 10 万人未満の都市 (65.6%) が最も高く、次いで人口 10 万人以上の都市 (65.4%) となっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、札幌市 (65.1%) が最も高く、次いで人口 10 万人以上の都市、人口 10 万人未満の都市 (ともに 64.9%) となっている。

【性別】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、男性 67.1%、女性 61.5%となっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、男性 65.3%、女性 62.1%となっている。

【年代別】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、50～59 歳 (72.2%) が最も高く、次いで 30～39 歳 (69.6%) となっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、20～29 歳 (67.9%) が最も高く、次いで 50～59 歳、60～69 歳 (ともに 64.2%) となっている。

【職種別】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、自営業 (商工サービス業) (74.4%) が最も高く、次いで労務職系 (69.3%) となっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、自営業 (商工サービス業) (81.4%) が最も高く、次いで無職 (66.9%) となっている。

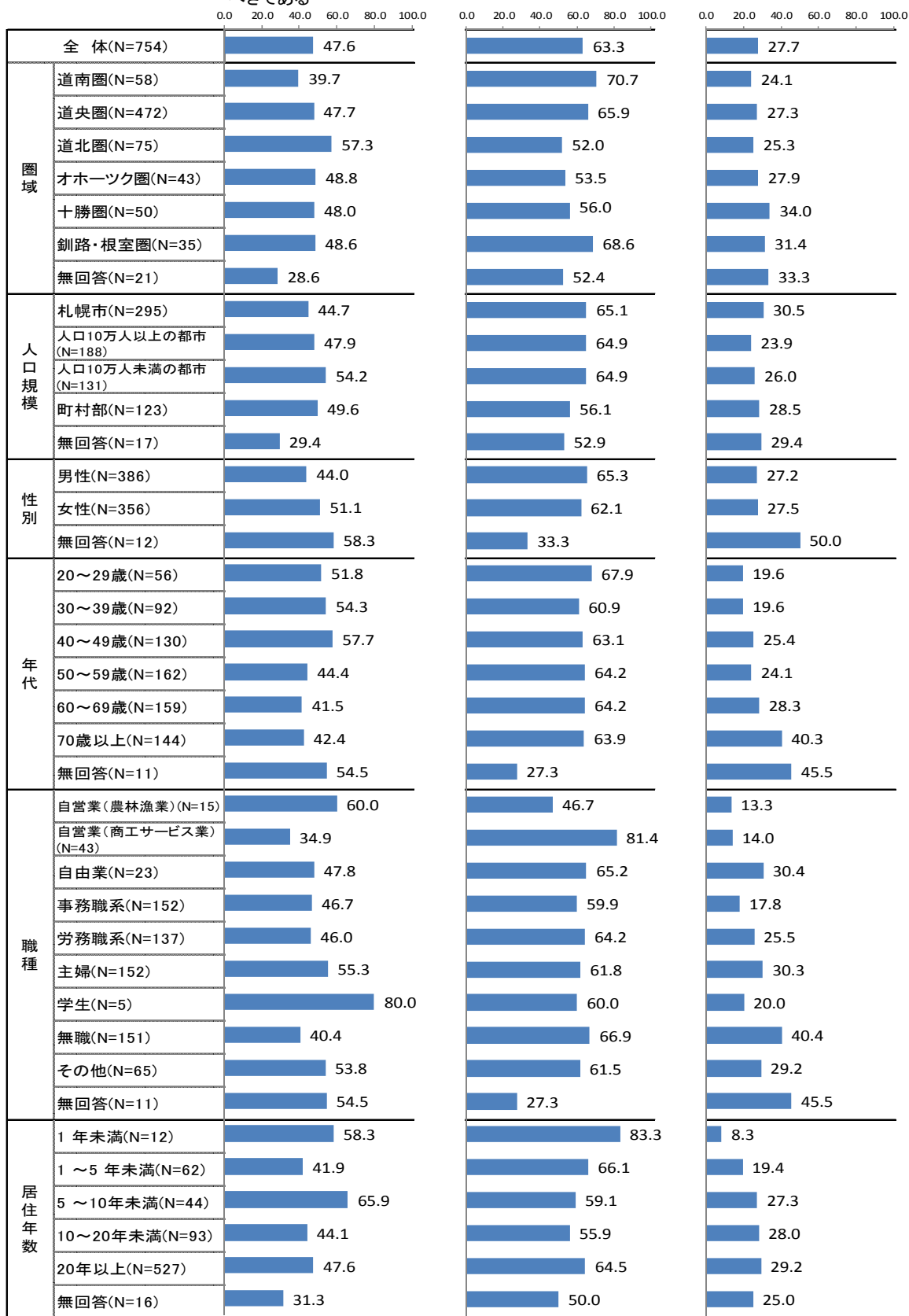
【居住年数別】

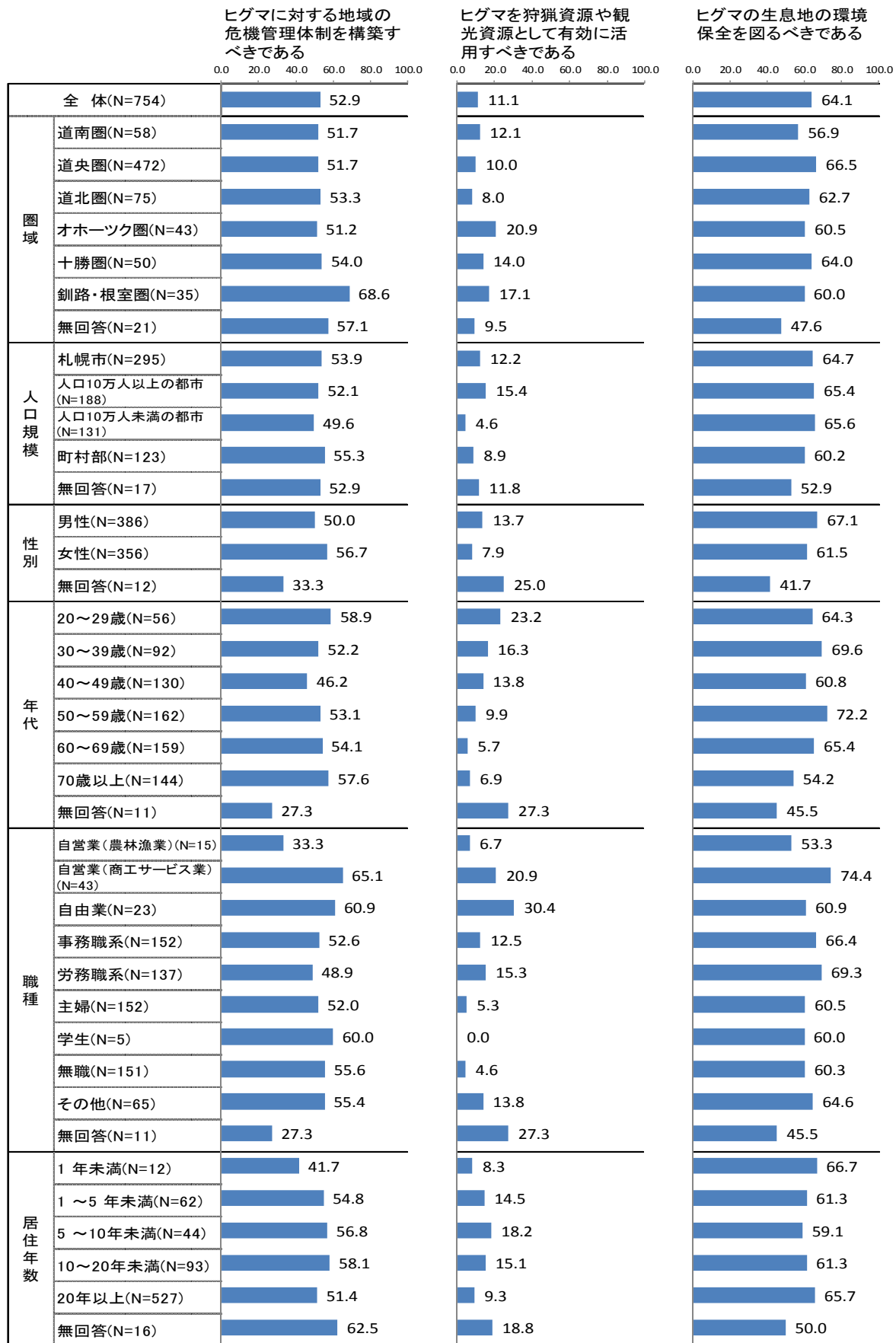
「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、1 年未満 (66.7%) が最も高く、次いで 20 年以上 (65.7%) となっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、1 年未満 (83.3%) が最も高く、次いで 1～5 年未満 (66.1%) となっている。

農地や市街地の周りに
電気柵を設置するなど
被害防除対策を進める
べきである

ヒグマの正しい知識を
普及すべきである

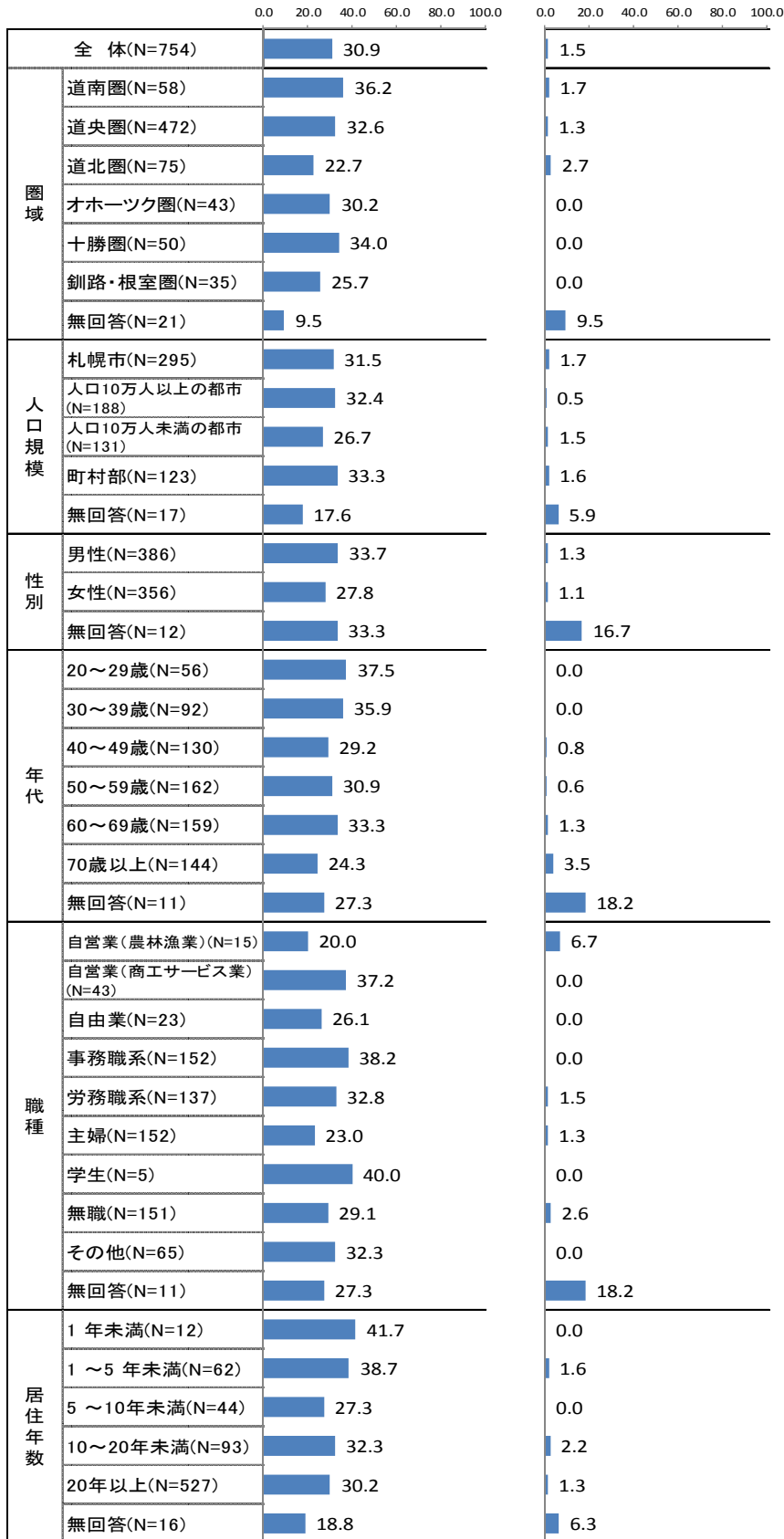
ヒグマを捕獲する技術
者を育成すべきである





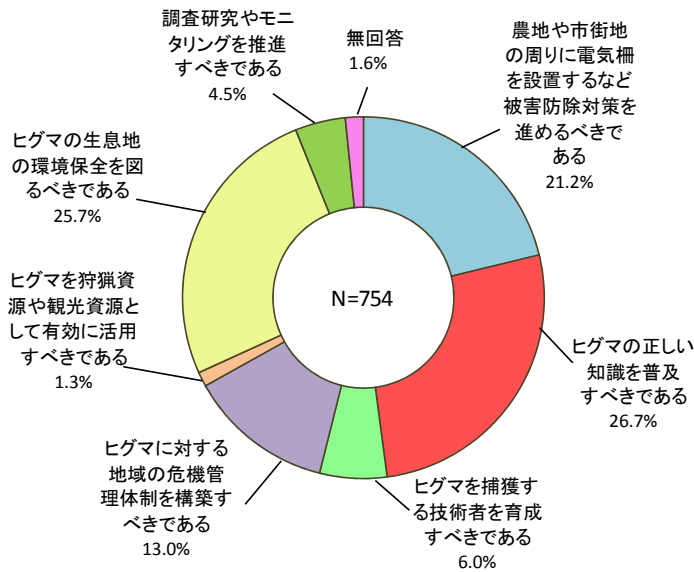
調査研究やモニタリングを推進すべきである

無回答



問7 「問6」で選んだ選択肢のうち、特に重要と考える取組を、優先順位の高い順に3つ記載してください。

<優先順位 1 位>



【全体】

「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」が 26.7%と最も高く、次いで「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」が 25.7%、「農地や市街地の周りに電気柵を設置するなど被害防除対策を進めるべきである」が 21.2%となっている。

【圏域別】

「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、釧路・根室圏（34.3%）が最も高く、次いで道南圏（32.8%）となっている。「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、道央圏（27.8%）が最も高く、次いでオホーツク圏（25.6%）となっている。

【人口規模別】

「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、町村部（32.5%）が最も高く、次いで札幌市（27.8%）となっている。「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、人口 10 万人以上の都市（28.7%）が最も高く、次いで人口 10 万人未満の都市（28.2%）となっている。

【性別】

「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、男性、女性ともに 26.7%となっている。「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、男性 26.4%、女性 25.0%となっている。

【年代別】

「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、20～29 歳（33.9%）が最も高く、次いで 70 歳以上（31.9%）となっている。「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、50～59 歳（32.7%）が最も高く、次いで 30～39 歳（31.5%）となっている。

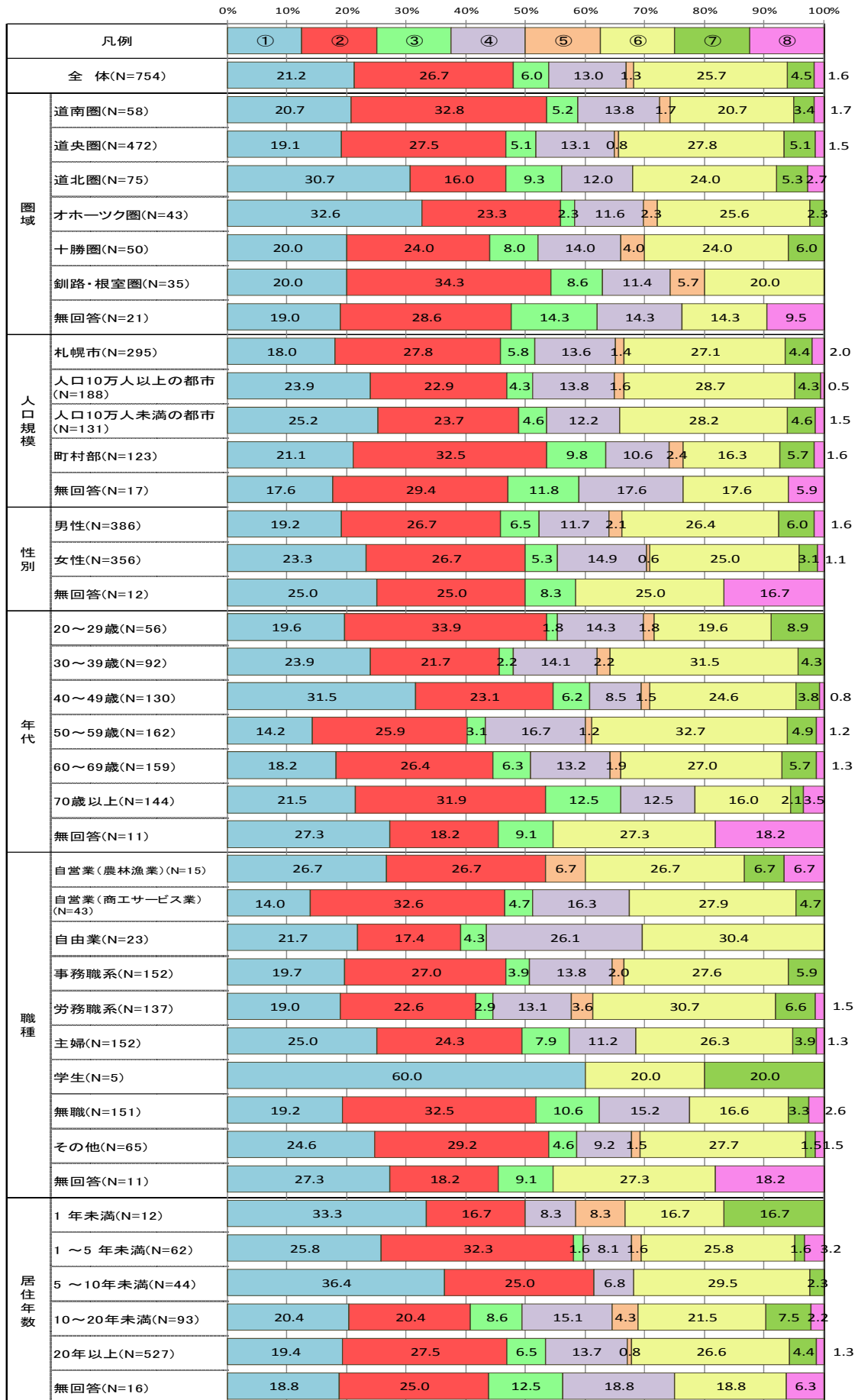
【職種別】

「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、自営業（商工サービス業）（32.6%）が最も高く、次いで無職（32.5%）となっている。「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、労務職系（30.7%）が最も高く、次いで自由業（30.4%）となっている。

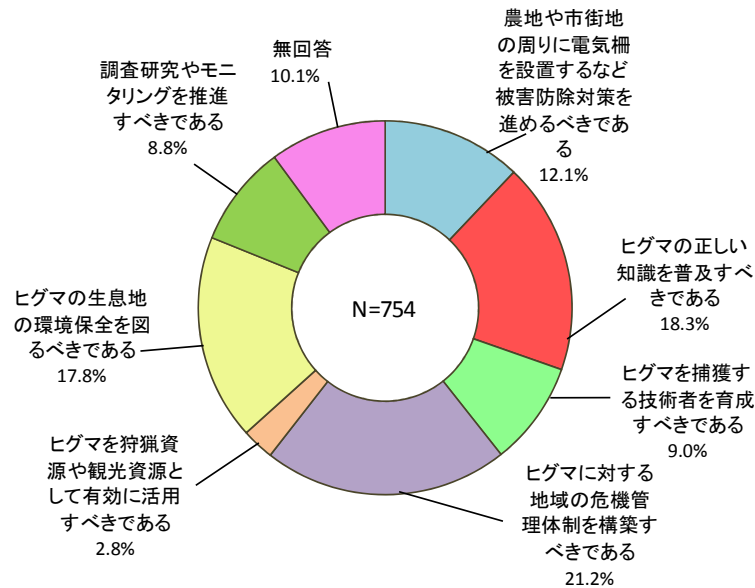
【居住年数別】

「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、1～5 年未満（32.3%）が最も高く、次いで 20 年以上（27.5%）となっている。「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、5～10 年未満（29.5%）が最も高く、次いで 20 年以上（26.6%）となっている。

- ①農地や市街地の周りに電気柵を設置するなど被害防除対策を進めるべきである
 ②ヒグマの正しい知識を普及すべきである
 ③ヒグマを捕獲する技術者を育成すべきである
 ④ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである
 ⑤ヒグマを狩猟資源や観光資源として有効に活用すべきである
 ⑥ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである
 ⑦調査研究やモニタリングを推進すべきである
 ⑧無回答



<優先順位 2 位>



【全体】

「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」が 21.2%と最も高く、次いで「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」が 18.3%、「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」が 17.8%となっている。

【圏域別】

「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、釧路・根室圏 (31.4%) が最も高く、次いで道南圏 (25.9%) となっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、釧路・根室圏 (22.9%) が最も高く、次いで道央圏 (19.3%) となっている。

【人口規模別】

「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、町村部 (24.4%) が最も高く、次いで札幌市 (23.1%) となっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、人口 10 万人未満の都市 (22.1%) が最も高く、次いで人口 10 万人以上の都市 (21.8%) となっている。

【性別】

「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、男性 19.4%、女性 23.3%となっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、男性 20.5%、女性 16.6%となっている。

【年代別】

「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、70 歳以上 (29.2%) が最も高く、次いで 20～29 歳 (26.8%) となっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、50～59 歳 (21.6%) が最も高く、次いで 40～49 歳 (20.8%) となっている。

【職種別】

「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、自営業 (商工サービス業) (25.6%)、無職 (23.8%) で比較的高くなっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、自営業 (商工サービス業) (27.9%) が最も高く、次いで自由業 (26.1%) となっている。

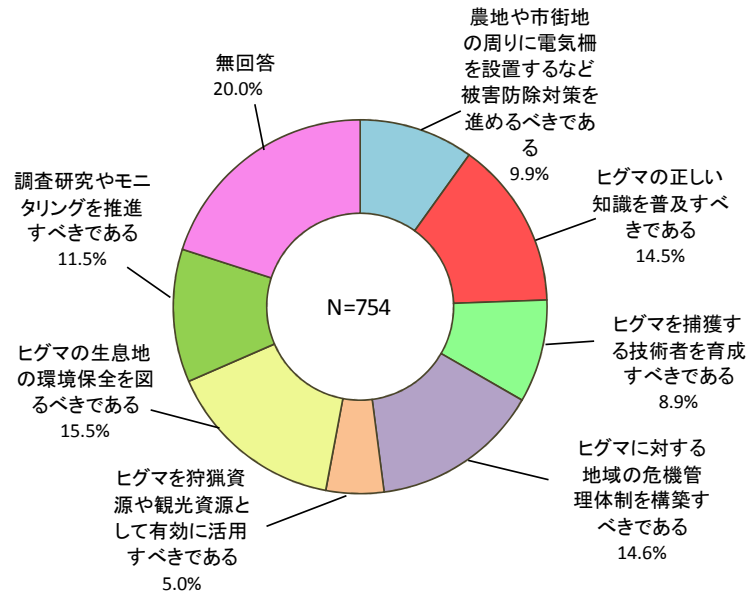
【居住年数別】

「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、1～5 年未満 (25.8%) が最も高く、次いで 5～10 年未満 (25.0%) となっている。「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」は、1 年未満 (33.3%) が最も高く、次いで 20 年以上 (18.6%) となっている。

- ①農地や市街地の周りに電気柵を設置するなど被害防除対策を進めるべきである
 ②ヒグマの正しい知識を普及すべきである
 ③ヒグマを捕獲する技術者を育成すべきである
 ④ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである
 ⑤ヒグマを狩猟資源や観光資源として有効に活用すべきである
 ⑥ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである
 ⑦調査研究やモニタリングを推進すべきである
 ⑧無回答

凡例		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
全体(N=754)		12.1	18.3	9.0	21.2	2.8	17.8	8.8	10.1	
圏域	道南圏(N=58)	10.3	19.0	6.9	25.9	1.7	15.5	10.3	10.3	
	道央圏(N=472)	14.4	19.3	8.1	19.5	1.9	17.8	9.1	10.0	
	道北圏(N=75)	6.7	17.3	10.7	20.0	6.7	20.0	8.0	10.7	
	オホーツク圏(N=43)	18.6	16.3		23.3	7.0	16.3	4.7	14.0	
	十勝圏(N=50)	18.0	12.0	10.0	20.0	6.0	16.0	14.0	4.0	
	釧路・根室圏(N=35)	5.7	22.9	11.4	31.4		20.0	2.9	5.7	
	無回答(N=21)	4.8	4.8	9.5	33.3		19.0	4.8	23.8	
人口規模	札幌市(N=295)	12.2	17.6	9.2	23.1	2.4	17.3	9.5	8.8	
	人口10万人以上の都市(N=188)	6.4	21.8	9.6	20.7	4.3	19.7	10.1	7.4	
	人口10万人未満の都市(N=131)	19.8	22.1	8.4	14.5	2.3	15.3	6.1	11.5	
	町村部(N=123)	13.0	12.2	8.1	24.4	2.4	17.9	8.1	13.8	
	無回答(N=17)	5.9	5.9	11.8	23.5		23.5	5.9	23.5	
性別	男性(N=386)	12.7	20.5	7.8	19.4	2.6	19.7	8.8	8.5	
	女性(N=356)	11.8	16.6	9.8	23.3	3.1	16.0	8.4	11.0	
	無回答(N=12)	25.0		16.7	8.3	16.7		33.3		
年代	20～29歳(N=56)	17.9	12.5	5.4	26.8		8.9	17.9	7.1	3.6
	30～39歳(N=92)	15.2	19.6	3.3	19.6	6.5	15.2	13.0	7.6	
	40～49歳(N=130)	10.0	20.8	8.5	20.0	3.1	17.7	10.0	10.0	
	50～59歳(N=162)	15.4	21.6	7.4	13.6	1.2	19.8	10.5	10.5	
	60～69歳(N=159)	11.9	17.0	8.8	22.6		20.1	9.4	10.1	
	70歳以上(N=144)	6.9	16.7	15.3	29.2	2.8	15.3	2.1	11.8	
	無回答(N=11)	27.3		9.1	9.1	18.2		36.4		
職種	自営業(農林漁業)(N=15)	20.0	20.0		13.3		26.7		20.0	
	自営業(商工サービス業)(N=43)	11.6	27.9	2.3	25.6	4.7	20.9	2.3	34.7	
	自由業(N=23)	13.0	26.1	4.3	17.4	13.0	4.3	17.4	4.3	
	事務職系(N=152)	14.5	16.4	4.6	20.4	2.0	16.4	15.1	10.5	
	労務職系(N=137)	13.9	22.6	8.0	16.1	4.4	17.5	9.5	8.0	
	主婦(N=152)	10.5	15.8	11.2	23.0	2.0	18.4	7.9	11.2	
	学生(N=5)	20.0			60.0				20.0	
	無職(N=151)	9.9	17.2	13.2	23.8	2.6	19.2	4.0	9.9	
	その他(N=65)	10.8	16.9	12.3	23.1		18.5	7.7	10.8	
	無回答(N=11)	27.3		9.1	9.1	18.2		36.4		
居住年数	1年未満(N=12)	16.7	33.3		16.7		25.0		8.3	
	1～5年未満(N=62)	8.1	17.7	6.5	25.8	4.8	14.5	14.5	8.1	
	5～10年未満(N=44)	11.4	15.9	11.4	25.0	6.8	15.9	4.5	9.1	
	10～20年未満(N=93)	9.7	18.3	6.5	23.7	3.2	18.3	6.5	14.0	
	20年以上(N=527)	13.1	18.6	9.7	19.7	2.3	18.0	8.9	9.7	
	無回答(N=16)	6.3	6.3	12.5	31.3		18.8	6.3	18.8	

<優先順位 3 位>



【全体】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」が 15.5%で最も高く、次いで「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」が 14.6%、「ヒグマの正しい知識を普及すべきである」が 14.5%となっている。

【圏域別】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、道南圏 (19.0%) が最も高く、次いで十勝圏 (18.0%) となっている。「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、釧路・根室圏 (22.9%) が最も高く、次いで道北圏、十勝圏 (ともに 20.0%) となっている。

【人口規模別】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、町村部 (18.7%) が最も高く、次いで札幌市 (15.9%) となっている。「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、人口 10 万人未満の都市 (18.3%) が最も高く、次いで町村部 (15.4%) となっている。

【性別】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、男性 16.1%、女性 15.4%となっている。「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、男性 14.2%、女性 15.2%となっている。

【年代別】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、30～39 歳 (19.6%) が最も高く、次いで 70 歳以上 (16.7%) となっている。「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、50～59 歳 (17.9%) が最も高く、次いで 70 歳以上 (15.3%) となっている。

【職種別】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、自由業 (26.1%) が最も高く、次いで事務職系 (19.7%) となっている。「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、自営業 (農林漁業) (20.0%) が最も高く、次いで労務職系 (16.8%) となっている。

【居住年数別】

「ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである」は、10～20 年未満 (17.2%) が最も高く、次いで 1 年未満 (16.7%) となっている。「ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである」は、5～10 年未満 (18.2%) が最も高く、次いで 1 年未満 (16.7%) となっている。

- ①農地や市街地の周りに電気柵を設置するなど被害防除対策を進めるべきである
 ②ヒグマの正しい知識を普及すべきである
 ③ヒグマを捕獲する技術者を育成すべきである
 ④ヒグマに対する地域の危機管理体制を構築すべきである
 ⑤ヒグマを狩猟資源や観光資源として有効に活用すべきである
 ⑥ヒグマの生息地の環境保全を図るべきである
 ⑦調査研究やモニタリングを推進すべきである
 ⑧無回答

凡例		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
全体(N=754)		9.9	14.5	8.9	14.6	5.0	15.5	11.5	20.0
圏域	道南圏(N=58)	6.9	13.8	12.1	6.9	5.2	19.0	10.3	25.9
	道央圏(N=472)	9.5	14.8	9.3	14.2	5.1	15.0	12.7	19.3
	道北圏(N=75)	14.7	16.0	2.7	20.0	1.3	16.0	6.7	22.7
	オホーツク圏(N=43)	14.0	9.3	9.3	9.3	9.3	14.0	11.6	23.3
	十勝圏(N=50)	4.0	16.0	12.0	20.0	2.0	18.0	10.0	18.0
	釧路・根室圏(N=35)	17.1	8.6	5.7	22.9	8.6	14.3	14.3	8.6
	無回答(N=21)	4.8	19.0	9.5	9.5	9.5	14.3	4.8	28.6
人口規模	札幌市(N=295)	9.5	15.9	9.8	12.5	6.1	15.9	11.5	18.6
	人口10万人以上の都市(N=188)	12.2	14.9	7.4	14.9	7.4	13.3	12.8	17.0
	人口10万人未満の都市(N=131)	7.6	15.3	10.7	18.3	0.8	15.3	9.2	22.9
	町村部(N=123)	10.6	8.9	8.1	15.4	2.4	18.7	12.2	23.6
	無回答(N=17)	5.9	17.6	11.8	11.8	11.8	11.8	11.8	29.4
性別	男性(N=386)	9.3	14.8	9.1	14.2	6.5	16.1	13.0	17.1
	女性(N=356)	10.4	14.3	9.0	15.2	3.1	15.4	9.8	22.8
	無回答(N=12)	16.7	8.3	8.3	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3
年代	20～29歳(N=56)	8.9	21.4	10.7	10.7	10.7	14.3	8.9	14.3
	30～39歳(N=92)	8.7	18.5	5.4	13.0	2.2	19.6	12.0	20.7
	40～49歳(N=130)	13.1	15.4	7.7	13.1	6.9	15.4	10.0	18.5
	50～59歳(N=162)	9.9	10.5	9.3	17.9	4.9	14.8	9.9	22.8
	60～69歳(N=159)	10.1	16.4	8.8	14.5	3.1	14.5	14.5	18.2
	70歳以上(N=144)	7.6	11.1	11.8	15.3	4.2	16.7	12.5	20.8
	無回答(N=11)	18.2	9.1	9.1	18.2	9.1	9.1	9.1	36.4
職種	自営業(農林漁業)(N=15)	13.3	13.3	20.0	13.3	40.0			
	自営業(商工サービス業)(N=43)	2.3	16.3	4.7	16.3	11.6	18.6	18.6	11.6
	自由業(N=23)	4.3	17.4	13.0	13.0	13.0	26.1	4.3	8.7
	事務職系(N=152)	9.2	11.8	5.3	12.5	5.3	19.7	13.8	22.4
	労務職系(N=137)	11.7	16.8	8.8	16.8	4.4	16.1	9.5	16.1
	主婦(N=152)	13.8	17.1	7.9	15.8	2.6	11.2	7.2	24.3
	学生(N=5)	60.0					20.0	20.0	
	無職(N=151)	6.0	13.9	14.6	13.2	2.0	17.9	12.6	19.9
	その他(N=65)	13.8	9.2	7.7	15.4	10.8	10.8	15.4	16.9
無回答(N=11)	18.2	9.1	9.1	18.2	9.1	9.1	9.1	36.4	
居住年数	1年未満(N=12)	33.3	8.3	16.7	16.7	8.3	16.7	16.7	
	1～5年未満(N=62)	6.5	12.9	6.5	16.1	6.5	16.1	17.7	17.7
	5～10年未満(N=44)	13.6	13.6	9.1	18.2	6.8	4.5	13.6	20.5
	10～20年未満(N=93)	8.6	15.1	7.5	11.8	4.3	17.2	11.8	23.7
	20年以上(N=527)	10.6	14.0	9.7	14.6	4.6	16.1	10.8	19.5
	無回答(N=16)	6.3	18.8	12.5	18.8	12.5	6.3	25.0	

「人とヒグマの共存に関する道民の意識について」の調査を終えて

道民がヒグマと遭遇する機会と対策は、3割の方がヒグマの生息地に出かけており、その内3割の方は、鈴の携行などヒグマ対策を取っていなかった。

ヒグマに関する考えでは、「餌を与えることは良くない」(69.0%)が最も高く、「北海道の象徴である」(41.6%)が次いでおり、保護する考え方(「できるだけ殺さずに対応すべき」53.7%、「ヒグマの保護は必要だ」34.4%)が、数を減らすべきとの考え方(「捕獲して数を減らすべき」22.9%、「ヒグマは居なくていい」8.6%、「市街地や農地への出没は許せない」20.6%)を大きく上回った。

また、北海道や関係機関が今後さらに強化すべき対策として望むものは、「生息地の環境保全」(64.1%)が最も高く、次いで「ヒグマの正しい知識の普及」(63.3%)、「地域の危機管理体制の構築」(52.9%)と続いた。

今後は、この調査結果などを参考として、平成28年度中に策定予定の北海道ヒグマ管理計画(計画期間 平成29～33年度)に反映させるとともに、道民ニーズを踏まえたヒグマ対策に取り組んでいく。

(環境生活部生物多様性保全課)